

## 連結財務書類4表

### 貸借対照表

(平成21年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
	金額		金額
<b>1 公共資産</b>	<b>105,247</b>	<b>1 固定負債</b>	<b>38,976</b>
(1)有形固定資産	105,245	(1)地方公共団体地方債	31,052
(2)無形固定資産	2	(2)関係団体地方債	2,439
<b>2 投資等</b>	<b>3,900</b>	(3)長期未払金	1,078
(1)投資及び出資金	1,183	(4)引当金	4,407
(2)貸付金	98	<b>2 流動負債</b>	<b>5,785</b>
(3)基金等	2,114	(1)翌年度償還予定地方債等	3,272
(4)長期延滞債権	535	(2)短期借入金	1,374
(5)回収不能見込額	30	(3)未払金	588
<b>3 流動資産</b>	<b>7,092</b>	(4)翌年度支払予定退職手当	291
(1)資金	4,282	(5)賞与引当金	214
(2)未収金	745	(6)その他	46
(3)販売用不動産	1,993		
(4)その他	75	負債合計	44,761
(5)回収不能見込額	3	純資産の部	
<b>4 繰延勘定</b>	<b>85</b>	<b>3 純資産</b>	<b>71,563</b>
		純資産合計	<b>71,563</b>
資産合計	116,324	負債及び純資産合計	116,324

\*売却可能資産については整理中のため計上していません。

### 資金収支計算書

(自平成20年4月1日  
至平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	金額
1 経常的収支	5,372
2 公共資産整備収支	615
3 投資・財務的収支	3,413
翌年度繰上充用金増減額	253
当年度歳計現金増減額	1,091
期首歳計現金残高	3,191
<b>期末歳計現金残高</b>	<b>4,282</b>

### 行政コスト計算書

(自平成20年4月1日  
至平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	金額
経常行政コスト	27,992
<b>1 人にかかるコスト</b>	<b>5,856</b>
(1)人件費	5,117
(2)退職手当引当金繰入等	525
(3)賞与引当金繰入額	214
<b>2 物にかかるコスト</b>	<b>8,511</b>
(1)物件費	4,216
(2)維持補修費	184
(3)減価償却費	4,111
<b>3 移転支的コスト</b>	<b>12,455</b>
(1)社会保障給付	6,496
(2)補助金等	5,731
(3)他会計への支出額	0
(4)他団体への公共資産整備補助金等	228
<b>4 その他のコスト</b>	<b>1,170</b>
(1)支払利息	827
(2)回収不能見込計上額	53
(3)その他行政コスト	290
経常収益	9,734
1 使用料・手数料	439
2 分担金・負担金・寄付金	2,823
3 保険料	1,319
4 事業収益	4,548
5 その他行政サービス収入	605
純経常行政コスト(経常行政コスト 経常収益)	<b>18,258</b>

### 純資産変動計算書

(自平成20年4月1日  
至平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	金額
期首純資産残高	70,291
<b>純経常行政コスト</b>	<b>18,258</b>
財源調達	20,044
地方税	3,489
地方交付税	7,220
その他	2,645
補助金等	6,690
臨時損益	480
資産評価替・無償受贈資産受入	2
その他	36

## 連結財務書類 4 表

### 1 連結貸借対照表について

連結貸借対照表は、連結対象の各会計、法人を一つの行政サービス実施体とみなして、市全体の資産や負債の情報を表しています。ただし、連結に際して各会計・法人固有の会計基準等により求められていない項目については、普通会計に準じて算定し計上しています。

### 2 連結行政コスト計算書について

連結行政コスト計算書は、普通会計の行政コスト計算書の考え方を連結対象の各会計、法人にも適用し、一つの行政サービス実施体として作成しています。

### 3 連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書は、普通会計の純資産変動計算書の考え方を連結対象の各会計、法人にも適用し、一つの行政サービス実施体として作成しています。

### 4 連結資金収支計算書

連結資金収支計算書は、普通会計の資金収支計算書の考え方を連結対象の各会計、法人にも適用し、一つの行政サービス実施体として作成しています。

### 5 連結財務書類 4 表から分かること

平成 20 年度連結貸借対照表を見ると、資産総額は約 1,163 億円となっており、普通会計貸借対照表と比較すると連単倍率は 1.51 倍です。倍率の主な要因は病院事業における固定資産約 57 億円や水道事業における固定資産約 34 億円や公共下水道事業における有形固定資産約 145 億円などです。連結ベース、普通会計ベースともに有形固定資産が資産全体の 9 割以上を占め、道路、学校、病院、下水道等有形固定資産として整備された資産が、行政サービスの重要な支えとなっていることを表しています。

平成 20 年度連結行政コスト計算書を見ると、行政コスト約 280 億円に対して連結対象となる特別会計、法人等が実施する事業に対する施設利用料や保険料、その他受益者負担金等は約 97 億円となっており、行政各分野における行政コストの多くが、受益者負担金以外の税金等で賄われていることが分かります。

平成 20 年度連結純資産変動計算書を見ると、期末純資産残高は約 716 億円となっており、前年度から約 13 億円増加しています。連結することで各会計においてどのように資産形成がなされたかを把握することができ、特別会計等は補助金等により資産が形成されていることが分かります。

平成 20 年度連結資金収支計算書を見ると、経常的収支の部における収支余剰約 54 億円に対し、公共資産の部及び投資・財務的収支の部の収支不足額が約 40 億円となっており、経常的収支差額が公共資産整備や地方債償還などに充当されていることを表しています。